

かしわざきし  
新潟県 柏崎市

おぎのしま  
荻ノ島地域協議会

“じよんのびできる”茅葺き集落荻ノ島

農泊

医療・福祉

定住・移住

所在地：新潟県柏崎市高柳町荻ノ島1053番地1  
連絡先：0257-41-3290  
URL：<https://www.facebook.com/oginoshima>



“じよんのびできる”宿と集落・水田



社会福祉法人との交流の様子



「秋祭り」を準備する様子

地域の課題・活動のきっかけ

茅葺の宿開始後20年が経過し、人口減少や高齢化等の課題に対応し共に支え合うため、平成22年に地域協議会を設立。

活動の内容

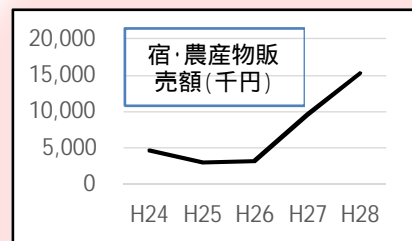
平成28年から社会福祉法人との相互訪問を開始し、農家と障がい者が連携し支え合う体制を構築。

大学生を受け入れ、フィールドワークや草刈り等の農地維持活動を共同で実施。

○インターンシップを受け入れ、移住・定住を推進。

活動の効果

交流人口、移住・定住人口、宿・農産物の販売額が増加。



今後の展開

大学との協働で設立する「(株)荻ノ島クラシック」により、空き家を改修して農泊事業に取り組む。

かしわぎし  
新潟県 柏崎市

# 農事組合法人 やた 矢田営農組合

新潟と世界と未来を『繋ぐ』米作り

インバウンド

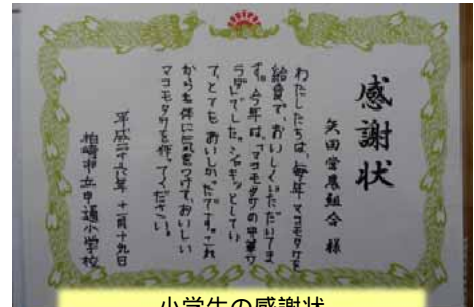
子ども  
(教育・体験)

地産地消

所在地：新潟県柏崎市矢田184番地  
連絡先：0257-35-7555  
URL：<http://yata-eino.com/>



「Niigata SAKE Lovers」による田植え体験



小学生の感謝状



酒造り体験

## 地域の課題・活動のきっかけ

平成19年に営農組合を設立し、農作物の生産・加工・販売を行う一方で、農業への理解促進のため農作業体験等を実施。

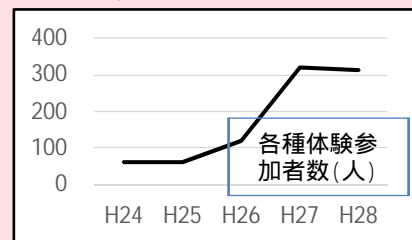
## 活動の内容

小学生に米や地元特産品のマコモタケの栽培体験、試食体験を実施。

酒造会社と連携し、19歳が米作り・酒造りを体験し20歳で乾杯する企画や、日本酒文化国際交流プロジェクト「Niigata SAKE Lovers」で外国人と米作り・酒造り体験を実施。

## 活動の効果

地元特産品の普及や新潟県の魅力を世界へと繋げるきっかけとなっている。



## 今後の展開

今後は、柏崎市観光協会ともタッグを組み、『新潟と世界』を繋ぐ米作り、酒造りを目指す。



えちご つまり  
NPO法人 越後妻有里山協働機構

おいしいお米とおもしろいアート ~ 農業 x サッカー女子 ~

自然・景観

定住・移住

女性の活躍



所在地：新潟県十日町市松代3743-1

連絡先：025-595-6180

URL：http://www.echigo-tsumari.jp/activity/tanada\_owner



FC選手の日常の作業風景



FC選手のサッカー風景



田植え体験の集合写真

地域の課題・活動のきっかけ

棚田保全に取り組むNPO法人を平成20年に立ち上げ、平成27年に女子サッカー選手が棚田の担い手となる「FC越後妻有」を設立。

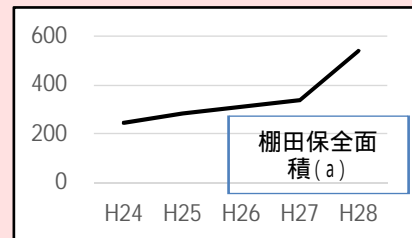
活動の内容

なでしこリーグ優勝を目指し監督、トレーナー、選手2名が移住し、農業機械を使いこなし農作業とサッカーに取り組んでいる。

棚田保全活動では、棚田オーナーの里親と農作業体験イベントを通じて地元農家等と交流を深めている。

活動の効果

農業の担い手不足とアマチュアスポーツの職の確保の問題解決と、棚田保全を図っている。



今後の展開

今後も「FC越後妻有」の選手を増員していき、他地域のモデルとなることを目指す。



# 特定非営利活動法人 地域おこし

限界集落脱却～震災復興からの軌跡～

6次産業化

定住・移住

復興



所在地：新潟県十日町市中条庚939-2  
連絡先：025-761-7009  
URL：<http://iketani.org/>



お米の直販作業風景



都市住民との体験交流



インターンシップ受入の様子

## 地域の課題・活動のきっかけ

中越大震災のボランティア派遣を受け入れるため地域の有志により立ち上げた組織を平成24年にNPO法人化した。

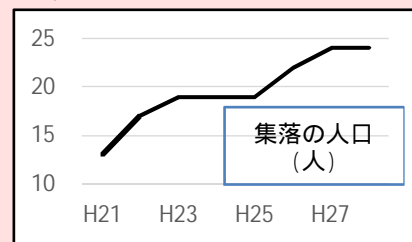
## 活動の内容

お米の直販や都市との交流活動、移住促進の取り組みを実施。

十日町市内外の地域おこし協力隊のサポートやインターンシップ受入・コーディネイト、他地域の地域おこしの応援事業を実施。

## 活動の効果

平成21年には6世帯13名だった集落の人口が移住者の受入や子供の誕生により増加し、限界集落を脱却した。



## 今後の展開

地域での地に足のついた取り組みを大切にしながら、他の地域への支援を広げていく。